

## 「衛生仮説」ちょっとくらい汚いほうが

皆様はこのごろ、「聞いたこともない新しい病気ばかり」と思いませんか？「新型コロナウイルス」は新しく出現したウイルスによる病気ですから御存知ないのは当たり前ですが、聞いたこともなかったという御病気も増えています。例えば、某政治家様で有名になったクローン病とか潰瘍性大腸炎、神経で言えば多発性硬化症など。以前からあったけど診断が付かなかったという事もあります。特に神経難病は文字通り「診断が付かなかっただけ」という方が多いです。パーキンソン病とか筋萎縮性側索硬化症(ALS)は、典型的な患者様は神経内科の人間が見れば一目で診断が付きませんが、長年「脳梗塞」と診断されていた方も多くいらっしゃいます。話がそれました。本日の主題は「衛生仮説」(英語では hygiene hypothesis といいます)といって、衛生環境の改善、生活水準の改善、小さな頃(幼少期)の感染症の減少により、アレルギーつまり免疫が関係した疾患が増えているという考えです。衛生的になって、赤痢やコレラなど特に消化器系感染症でお亡くなりになる方は劇的に減少しました。寄生虫も大きな死因になっていましたが減少しました。でも、それに反比例して上記のような免疫の御病気(自己免疫疾患)が増えています。ある研究では、寄生虫を持っている方々では、多発性硬化症が少ないそうです。衛生、清潔になった分だけ、自己免疫が起きやすい可能性があります。コロナも、かかるのはウイルスの伝播ですが、そのあと重症化するメカニズムは体内の免疫反応であることが良くわかっています。サイトカインの嵐とか血栓塞栓症などです。コロナにかかっても若者は何ともないのに、65歳以上の御高齢の方は重症化しやすいというのも、若年者と高齢者の免疫の違いによるものです。ただし、最近のデルタ株(インド型)は違いますが、兎に角、「免疫」というものが、いろいろな御病気の主軸になってきました。感染症は当然免疫ですが、全身の動脈硬化や、

はたまたアルツハイマー病、パーキンソン病などの神経変性疾患まで免疫が関与しているといわれています。免疫が弱いと御病気にかかりやすいですが、強すぎるとかえって自己免疫疾患など新たな病気も出てきます。一筋縄ではいかないということです。この辺りはまたそのうちに話題に挙げさせていただきます。ちょっとくらい汚い方が丁度良いのかもしれませんが。ただし、コロナなど明らかな感染症は別です。

今後とも、はみんぐを宜しくお願い申し上げます。

2021年8月

亀谷 寛